

A T A Cの東日本震災支援プロジェクト(A H S) ＜我々は東北で何が出来るのか＞

～第三次調査訪問 IN 盛岡（2/28～3/1）～

A T A C 運営副委員長
明石 祐二郎

東北をもっと知るために「第10回もりおかで縁を結ぶ交流会」に2名で参加しました。この交流会は盛岡商工会議所主催で通勤族に盛岡をもっと知ってもらおうと毎年開いているもので、官庁機関ではなく盛岡の企業の人たちと直接会ってA T A Cの主旨を御理解頂くために参加しました。

1部は盛岡出身の作家齊藤純様の＜私の好きなもりおか＞の講演：人間性、食べ物、風景など。2部は54名が6グループに分かれて懇談会が1時間20分程あり、A T A C 2名も別のグループに分かれ参加しました。グループ内で今回訪問の主旨を説明でき、今後のアプローチの方法についてもアドバイスを頂きました。3部は交流会で元持商工会会頭の挨拶で始まり3副会頭も出席されており「もりおかを知ってもらおう」との主旨がよく伝わりました。同じグループだった人に紹介を受けたりして35名位の人と交流できました。

今回の訪問で昨年9月に訪問した岩手県庁科学ものづくり振興課には岩手県工業技術センター、岩手県工業クラブの新しい窓口を御紹介頂きました。2回目の訪問で親身になってご紹介頂き、東北人の心暖かさがいま見られ、回数を重ねるごとに絆が深まるのではと考えます。訪問先で得た情報を列挙すると、1) 岩手県工業技術センターでは全ての技術支援で人材不足であり処理ができていないし補助金の制度も大いに活用したいが人材不足でできない。又企業からの要望（申請など）に対しての良否の判断など、アドバ

イスする人材がいないと、ないないづくしであり、是非A T A Cの支援が欲しい（出来れば常駐で）。今まで技術センターでたくさんのをやって来たが十分企業を満足させることが出来ていないので来年度は支援企業の満足度をアップしたい。

- 2) いわて産業振興センターからはまず専門家登録をして欲しいとのことで早速登録者を募集し登録します。登録すると同センターでは企業からの支援要請された内容を吟味し、登録メンバーの中から適材適所の人材を検索して企業に推薦するとのことです。
- 3) 岩手県工業クラブでは大手の1次、2次下請けに対し改善活動、トヨタ看板方式などを行っているが、3次まで手が廻らない状況なので是非支援をお願いしたい。今A T A Cの支援が必要な時期にきています。又このクラブでは異業種交流もやっておりリーダーの片山氏も紹介したいと。A T A Cに対する期待をまとめると、
 - ①すべての面で人材不足なので是非支援をお願いしたい。
 - ②仕事を再開してもユーザーが無くなっている企業が多いので、こんな物が出来ないか？こんな物が出来ますがどうですかと紹介して欲しい。
 - ③出来るだけ訪問回数を増やして心を通わせ、安心感、信頼感を得る必要がある。
 - ④北上、一関、奥州市など製造業の多い地域を訪問することも必要と思われる。今後、東日本地域の復旧、復興に少しでも寄与できるように努力していきたいと思えます。